

10月19日(月)

おはようございます。

今日あたりから答案返却ですが、そこできちんと復習ができるかどうかで、その後の学力のつきかたがぜんぜん違うというお話をします。

点数が何点か、順位は何番かが、気になるのはよくわかります。そこでは心がかなり揺れ動きます。「ああ、みんなはできているのに、おれはできてなかったなあ。」というふうに。そのようになるのはしかたありません。しかし、自分が何番かばかりを気にして、先生の解説をきちんと聞けないということであれば、なんのための答案返却かわかりません。

学力が一番つくのはこの答案返却のときだということをよく理解しなくてはなりません。そこで、先生の解説やアドヴァイスをよく聞いて、しっかり復習をしてもらいたいと思います。

昨日ですね、ニュースで、日本がラグビーで奇跡的な勝った南アフリカが、ウェルズに勝って、準決勝か準々決勝かに進出が決まったと伝えていました。逆転勝ちだったそうです。その南アフリカの選手が、インタビューで「我々は日本戦でたくさんのことを学んだ。だから、以前のわれわれと違ったのだ。」と言っていました。それが非常に印象に残りました。日本に負けた南アフリカは、自分たちは日本に負けたけれども、その失敗から多くのことを学んで、新しい自分たちになった。負けて失敗したことからちゃんと学んだから、もう自分たちは前とは違うと言ったのです。

こういう態度は、ちょうど諸君らのこれからの答案返却にも当てはまることなのです。悪いと思う成績でも、そこからどれだけのことをきちんとを学べるかということです。ほかの子ができていのに、自分ができていないのはなぜだろうか。その結果に対して、言い訳をしてごまかすのではなく、結果をきちんと受け入れて、これからどういうふうにしていけばいいのかと考えるのです。そのように考える人になってもらいたいのです。

南アフリカの選手たちは、日本戦を振り返り課題を見つけて修正をした。だから以前の自分たちとは違う闘いできたと言えたのです。諸君たちも、答案返却を経ることで、復習して学力を伸ばすために必要な多くの情報が見つかるはず。たとえば、自分では主観的にできていると思っていただけども、クラス全体とか、グループ全体とか、客観的に見てみると、こんなものかとか、自分はわかっているつもりだったけれども、ケアレスミスをして実際にはできなかったとか。その情報をきちんと見つめて、自分の課題をはっきりさせましょう。

南アフリカが日本戦から学んだように、諸君たちは答案返却からしっかり学んで、学力をつけていく基礎固めをしていってください。

いま一生懸命新しい校舎を建てるための基礎工事をやっています。この基礎工事が終わると、あっというまに校舎ができます。もうできている半分の

校舎のときもそうでしたが、基礎工事を長いことやっていて、いつ建つのだろうかと思っていました。しかし、基礎工事が終わり、鉄筋を組み立てだしたらあっというまに建ちました。しかしこうも言えます。時間をかけた確実な基礎工事があったからこそ、建ちだしたらすぐにできあがったのだと。今ニュースで話題になっている神奈川県でのマンションの基礎の杭打ち問題では、それこそ基礎工事をいい加減にしたから、立った後で取り返しのつかない段差ができてしまったのです。それと一緒に。諸君は、学力の基礎工事をきちんと時間をかけて行わなくてはなりません。結果をしっかり受け止めてきちんと復習することで確かな基礎学力を身につけていって下さい。学力がつくように祈っています。

今朝の話はこれで終わります。

(学校長)